

会議名	日豪交流打合せ (Interaction meeting)
日時	2019年 11月 21日 (木) 17:30~19:30(AEST)
場所	Jacobs Engineering Office (オーストラリア/メルボルン)
参加者	青年(統括本部)：河野(記)、竹内
参加者数	2名

### 1. 目的

World Engineers Convention2019(WEC2019)への参加を通して、本会議の参加期間中に日豪間のミーティングを開催することで、今後の本格的な日豪交流の実現に貢献する (国際委員会依頼案件)。

### 2. 概要

会議名：日豪交流打合せ (Interaction meeting)

期間： 2019年 11月 21日(木) (WEC2019 開催期間：11月 19日 (火) ~22日 (金) )

場所： Jacobs Engineering Office, 452 Flinders Street, Melbourne

### 3. 経緯

2015年に日豪友好協定が締結されてから、Engineers Australia (以下「EA」) 及び公益社団法人 日本技術士会 (以下「IPEJ」) 間で相互交流を深めることが約束された。それ以降、IPEJ 国際委員会が主導となり、日豪交流に向けた調整が行われてきたが、その実現が難航していたことから、2018年度以降、国際委員会から青年技術士交流委員会 (以下「青年委員会」) へ日豪交流への協力が要請された。そこで、青年技術士交流委員会が主として日豪交流の本格的な実現に向けて、2018年度から Skype 会議を通して準備を行ってきた。その結果、EA から青年委員会に対し、WEC2019への招待講演 (詳細は別項目に後述する) に加え、開催期間中に日豪交流に関する打合せが開催されることとなった。

### 4. 成果

前項「3.経緯」を受け、WEC2019 の開催期間中に今後の日豪交流に関する打合せが行われることとなった。IPEJ と EA 関係者 (参加者内訳：IPEJ：4名、EA：12名) が一同に集まり、今後の日豪交流に向けて、和やかな雰囲気の中で自由に意見交換を行った (詳細な打合せの議題は別添資料の通り)。本打合せで EA と IPEJ の参加者同士で意見交換を行った結果、以下が日豪間の合意内容となった。

#### 【日豪間合意内容】

- ・今年度あるいは来年度より、年に一回、日豪間(IPEJ-EA 間)の Web 会議を開催し、情報交換を行う。
- ・予算が出れば、お互いの国を行き来する。

これまで IPEJ の検討事項であった日豪交流の本格的な活動に向けて、今回の打合せを通じて、日豪間の基盤を構築することが出来たことは、大きな成果であると言える。また、EA から依頼を受けて、WEC2019 において青年委員会の成果も発表することもできたことも大変良い機会であった。

なお、本会議には国際委員会から山口第 3 小委員会委員長、鈴木委員の 2 名も参加しており、以下の日豪間合意内容については同意済みであるが、今後国際委員会とも密に連携を取り、具体的に日豪交流をどのように進めていくか検討する必要がある。



## 5. 今後の展望

・WEC2019 期間中に開催された、Young Engineers Event において、EA 青年技術士委員会代表者の Nicole Brown 氏からの講演があり、そこで Nicole 氏は今後、世界の様々な国の若手技術者と交流を続けていきたいこと、特に日本もその 1 つの国として積極的な活動を継続していきたいと発言は今後の日豪交流を強く印象付けるものであった。また、WEC2019 での青年委員会の活動成果を発表することができたことで、日本のプレゼンスを大きく示せた。これらのことから、報告者としては、今後 IPEJ 国際委員会を通じた連携が円滑に進むことを確信した。

・国際委員会から依頼を受けた日豪交流について、青年委員会としてのミッションは達成できた。今後は国際委員会とも密に連携し、本格的な日豪交流に向けて動いていきたいと考えている。

・日豪交流を本格的に進める上で、具体的に何を行うのか、お互いの国にとって有益なものとなるように国際委員会と青年委員会が連携を取りながら、検討を進めていく必要がある。



日豪交流打合せ後の集合写真

## 【参考情報】

報告者は日豪交流打合せに合わせて、WEC2019に参加してきたため、以下に本会議における主な参加報告をまとめる。

### 1. 目的

- ・青年委員会の活動成果に関する本会議への論文及び口頭発表
- ・当該会議への参加による日本のプレゼンス強化

### 2. 概要

会議名： World Engineers Convention 2019(WEC2019)

期間： 2019年11月19日(火)～22日(金)

場所： Melbourne Convention and Exhibition Centre

### 3. 報告者が参加した主日程

Date		Program
11月19日	PM	The University of Melbourne: Australian Integrated Multimodal EcoSystem (AIMES) Technical Tour
		WEC Young Engineers Event
	AM	Keynote 1-4
11月20日	PM	Technical Oral Presentation in WEC 2019
		WEC Welcome Reception
11月21日	AM	Keynote 5-8
	PM	FEIAP Executive meeting (※別レポートで報告)
		Interaction meeting between EA and IPEJ
11月22日	AM	Keynote 9-11

### 4. 成果

#### 4. 1 青年委員会の活動成果に関する本会議への論文及び口頭発表

本会議の Technical Oral Presentation の Theme 2: Engineering for humanity: responsive design for greater livability (SDGs 1, 2, 3, 4, 10, 11, 12 の6項目)のセッションにおいて、東電福島事故後のリスクコミュニケーションの活動経験を他分野の技術者と共有し、より良いリスクコミュニケーションの方法を検討することの重要性及び今後の活動展開について論文及び口頭発表を行った。(※論文発表は、本会議前に事務局に提出し、Peer-Reviewerの査読審査は通過済。)

#### 4. 2 当該会議への参加による日本のプレゼンス強化

WEC2019にて、東電福島事故後のリスクコミュニケーションに関する口頭及び論文発表を行ったことで、日本の存在感を大きく示すことができた。特に本テーマは原子力分野の専門家のみならず、技術者全般に共通するテーマということもあり、会場の聴講者の人数(100名程度)からも関心の高さが伺えた。

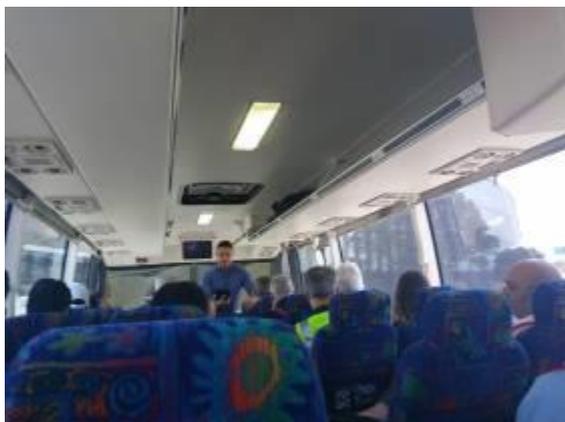
### 5. 活動詳細

報告者が参加した主な開催イベントに関して、以下に報告する。

#### 5. 1 11月19日

(1) The University of Melbourne: Australian Integrated Multimodal EcoSystem (AIMES) Technical Tour)

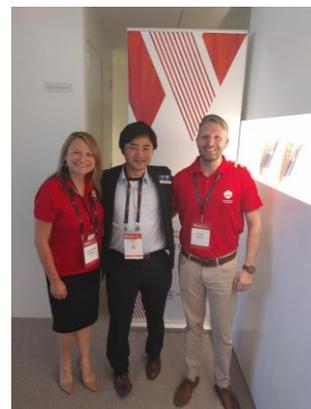
メルボルン大学で実施している、Australian Integrated Multimodal EcoSystem (AIMES)に関するテクニカルツアーに参加した。AIMESは2016年に設立され、より安全で、クリーンな都市部における持続可能な道路状況を提供することを目的に、実道路環境において様々な輸送技術を試験的に組み合わせることによって開発されたものである。実際に現地では道路状況を可視化できる機器を拝見したところ、自動車が道路上における動きの確認を容易に行うことができ、また、その流れを分析し、検証することで、持続可能な交通システムの構築を目指しているとのことであった。今後、このような技術を用いることで、道路上の渋滞の発生防止や、また交通事故の発生低下にも貢献できるのではないかと個人的に思った。



## (2) WEC Young Engineers Event

EA オフィスにおいて、WEC Young Engineers Event が開催された。これは WEC2019 に参加する若手技術者が一堂に集まり、交流するイベントである。少なくとも100名以上の若手技術者が本イベントへ参加しており、若手技術者同士間で積極的に交流しようとする姿勢を強く感じることができた。報告者自身も参加者として本イベントに参加し、多くの若手技術者と交流することができた。

本イベントではEA代表者のOpening Speechに始まり、EA青年委員会代表者のNicole Brown氏からの講演があった。Nicole氏が今後、世界の様々な国の若手技術者と交流を続けていきたいこと、特に日本もその1つの国として積極的な活動を続けていきたいとの講演には報告者自身、大きく胸を打たれた。なお、Nicole氏は2018年度から日豪交流の連絡窓口として対応調整を行ってきており、メールやSkype会議で連絡を取り合ってきたものの、この場で初めて面と向かって話をすることができ、改めて感慨深い気持ちとなった。



## 5. 2 11月20日

### (1) Technical Oral Presentation in WEC2019

東電福島事故後のリスクコミュニケーションに関する活動経験は、放射線防護の専門家のみで共有されているため、多様な専門性を有する青年技術士交流委員会とのワークショップ（2019年5月11日開催）を通じて得られた内容をまとめて、口頭発表を行った。

その主な具体的な発表内容としては、各専門分野の技術者が東電福島事故といったクライシス時において、一般住民に対してどのように向き合っ対応するのか、また、日本保物学会の事故当時の対応についてどう感じたかについて、自由に意見を述べてもらい、最終的に今後、東電福島事故後のリスクコミュニケーションを教



訓として、各分野の専門家がどのように一般住民に対応していくべきなのかについて、教育的な観点でグループワークを通してディスカッションを行った旨を報告した。本発表後、聴講者から、本活動を継続的に取り組むことで、特に若手研究者・技術者を対象に教育的な観点から学んだことを伝え、自身ならどのように行うかを考える機会を設けてはどうかといった貴重なアドバイスを聴講者の方から頂いた。本発表を通して、世界中の多くの技術者に東電福島事故後の放射線のリスクコミュニケーションから得られた教訓を共有できたことは大変有意義な機会であり、また、発表後に得られた質問やコメントは青年技術士交流委員会、日本保健物理学会へもフィードバックし、今後の活動に役立てたい。なお、本発表内容でまとめた論文は近日中に、Journal of Australia Education に掲載される予定である。本発表への参加を通して、日本のプレゼンスを大きく示せることができた。



## (2) WEC Welcome Reception

Melbourne Convention and Exhibition Centre 内の機器展示場において、WEC 参加者の Welcome Reception が開催された。参加者は会場で用意された飲食物を食べながら、各参加者や各ブースの機器展示の説明者と自由に意見交換をすることができた。報告者は会場内で日本人参加者を含め、多くの参加者と意見交換を行うことができ、大変有意義な機会であった。



## 6. 今後の展望

- ・WEC2019 といった世界最大規模の国際会議で、日本保健物理学会と連携して、青年委員会の成果を発表出来たことは大変良い機会であった。今後も WEC のような国際会議では、可能な限り、青年委員会の成果をまとめて発表することで、日本のプレゼンスを大きく示せるだけでなく、若手技術者の国際感覚の醸成やアウトプット力向上に大きくつながるため、今後も継続的なチャレンジを期待したい。
- ・WEC2019 への参加経験は大変貴重であるため、青年委員会だけでなく、関係者への情報共有も可能な範囲で行っていく。

以上